

氏名	近 藤 正 得		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 890 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 28 日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系麻酔・蘇生学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学 位 論 文 題 目	イヌの脳虚血時間と神経学的予後に関する実験的研究		
論 文 審 査 委 員	教授 西本 詮	教授 大月三郎	教授 森 昭胤

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

上行大動脈遮断と大動脈・右房・大腿静脈間バイパス法を用いてイヌに10, 15, 18 および20分間の完全全脳虚血を負荷し、各虚血群で虚血中および虚血解除後7時間までの循環系各種パラメータおよび、虚血解除後7日までの神経学的予後を指標として、イヌにおける至適全脳虚血時間を検討した。

その結果、10分群では神経学的障害は軽度であり、神経学的に正常なものは1日目30%以後回復し7日目80%であった。15分群では神経学的障害にばらつきが認められ、全経過を通じて正常50%、重度障害50%であった。一方、18分群および20分群では7日目まで全例が重症な神経学的障害が遷延した。以上の結果より、神経学的予後を指標として虚血性脳障害に対する各種治療法の効果判定を行う場合、15分以内の脳虚血モデルでは、神経学的に正常なモデルが出現することがあり、治療効果の評価の上で、誤った結果を招くおそれがある。したがって、18分間の脳虚血モデルを用いることが望ましいと結論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は虚血性脳障害の神経学的予後について実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった各種治療法の効果判定に適した至適全脳虚血時間について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。